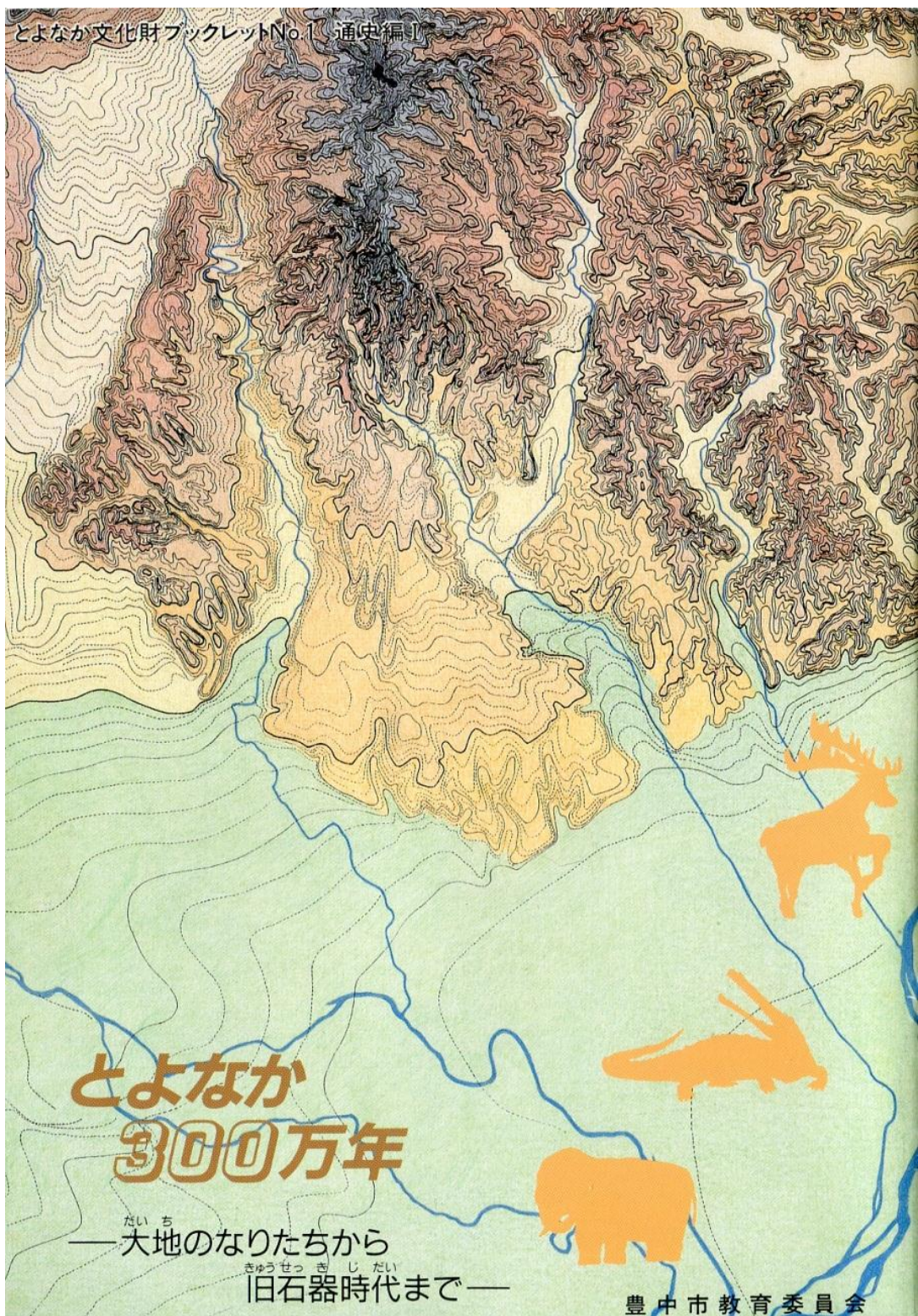


発行 豊中市教育委員会  
1992年3月31日発行  
編集 社会教育課文化財保護係  
協力 中世古李次郎  
豊中市市長公室自治振興室  
豊中市立教育研究所  
印刷 凸版印刷株式会社



とよなか文化財ブックレットNo.1 [通史編]

# とよなか 300万年

— 大地のなりたちから  
旧石器時代まで —

豊中市教育委員会

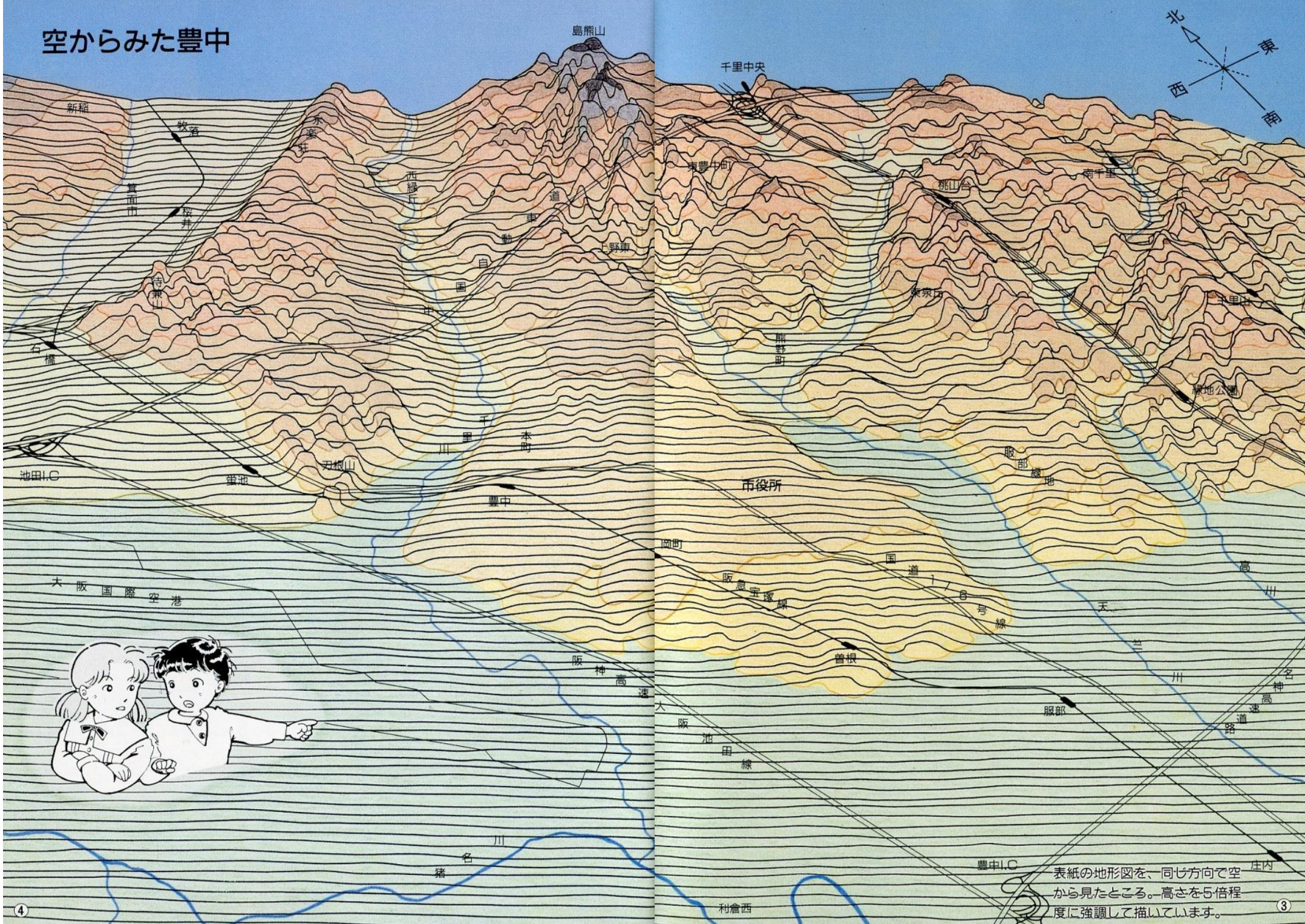


けんた なんだいこりゃあー！  
やよい ああ、表紙の絵のことね。  
けんた 線がクネクネといっぱいあるけど、なんのことだかさっぱりわかんないよ。  
やよい じゃあ教えてあげる。これはね、わたしたちの住んでる豊中よ。  
けんた ええっ。本当かい。でも、道路もなきや、空港もないじゃないか。  
やよい それはね、明治18年につくられた地図から、等高線だけをなぞって、高さで色分けしたもののな。  
けんた へえー。ということは、豊中って、本当はこんなにデコボコしているのかい。  
やよい そういうことっ！裏表紙を見てごらん。これが今の地図よ。同じ大きさにしてあるから、あなたの住んでる場所がどんな地形のところかわかると思うわ。  
けんた それにしても、今の豊中の地図って、等高線があまりない

やよい から、まるで平らな土地のように見えるよね。  
商業の街、大阪のすぐ北のところだから、早くから住宅や道路ができて、もとの地形がわからなくなってしまっているのよね。  
けんた アスファルトや住宅で、一面おおわれた土地ってところだね。ところでやよいちゃん。ほくにどうしてこんな絵を見せるんだい。  
やよい それはね、わたしたちが住んでる豊中が、一体どんなところで、いつ頃から、どんな人たちが生活してきたところなのか、一緒に勉強しようかなって思ったの。  
けんた うへえ、勉強／あたたっ、急におなかが痛くなってきたぞ。  
やよい なにいつてんの。さっきは授業中に、グーグーいびきかいて寝てたくせに。えっ、いやなの。じゃあ、わたし一人で勉強しよっ。  
けんた ちょっと待ってよ。うん。少し難しそうだけど、おもしろそうだね。この街で知らないこといっぱいあるし。豊中のむかしむかしがあ。なんだかわくわくしてきたぞー！



# 空からみた豊中



表紙の地形図を、同じ方向で空から見たところ。高さを5倍程度に強調して描いています。

# とよなかの地形

けんた「うわーっ、すごい！これ、豊中を空からながめたようすだね。(前のページの図)」

やよい「そつよ。表紙の絵を、同じ方向でなめ上から見たところなの。ただし、高さを5倍ほどに強調してあるから注意してね。」

けんた「それにしても、こうして見ると、豊中がすごいんと起伏に富んだ土地だってことがよくわかるよね。」

やよい「わたしたち、普段は電車やバスに乗ることが多いでしょ。長い距離を自分の足で歩くことがあまりないから、高さっていうのに、案外気がつかないのよね。」

けんた「そうだね…。ところで、絵の上の方にある高い山はなんて山だい？」

やよい「これはね、島熊山といって、豊中でいちばん高い山なの。標高135メートルもあるのよ。昔からすくなく景色のいいところで、万葉集にもでてくるわ。」

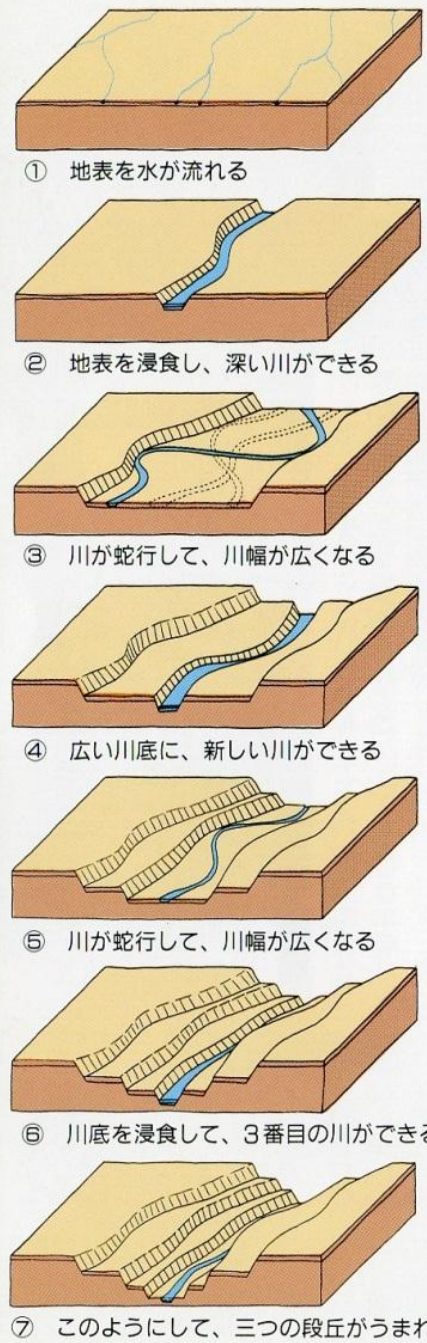
けんた「じゃあ、この島熊山から南にのびてくる低い丘は？」

やよい「豊中台地。真ん中あたりに今の市役所があるわ。岡町や豊中駅周辺の市街地も、この低い台地の上にひらけた街なのよ。」

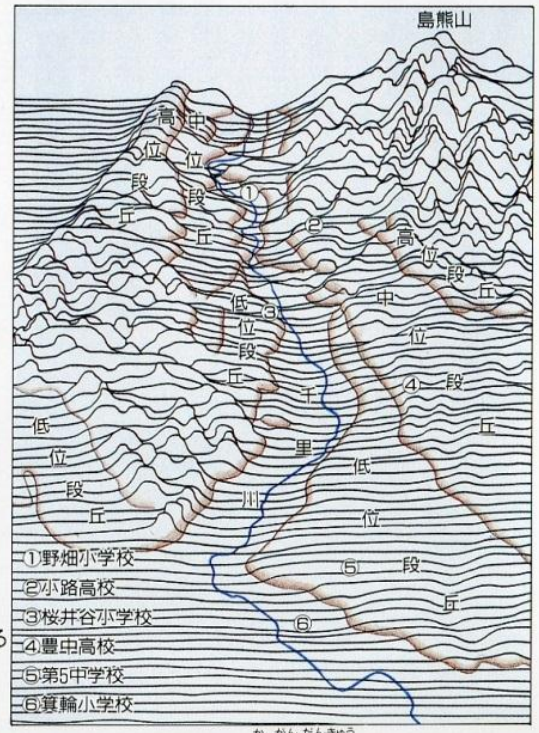
けんた「そういえば、曾根のあたりで道が急に下がってきたよ。」

たしにもよくわからないんだけど。昔ね、平原を流れていた小さな川が、やがて地表を浸食(少しづつくずしていくこと)して大きな川になるの。流れがゆるやかだと、川が蛇行(曲がりくねって進むこと)して、川幅が広くなる。この時に川の両岸が段のようにたちあがるってわけ。その後、地表がもちあがると、流れが急になって、広い川底に新しい川ができる。これがくり返されることによって深い谷ができ、谷の斜面に段が残ることらしいわ。」

けんた「うひょー、もう降参/なんだか頭がガンガンしてきたよ。」



- ① 地表を水が流れる
- ② 地表を浸食し、深い川ができる
- ③ 川が蛇行して、川幅が広くなる
- ④ 広い川底に、新しい川ができる
- ⑤ 川が蛇行して、川幅が広くなる
- ⑥ 川底を浸食して、3番目の川ができる
- ⑦ このようにして、三つの段丘がうまれる



千里川流域の河岸段丘のようす

## 河岸段丘のできかた

ているけど、台地のちようど端っこにあたるんだね。」

やよい「そついうことね。この豊中台地の東に広がる丘陵が千里丘陵で、吹田から茨木につづいていくの。」

けんた「台地の反対がわの、三角の形をした丘陵は？」

やよい「待兼山丘陵よ。ほら、昔の有名な歌があるじゃない。」

けんた「あけるまで、まちなかやまのほととぎすう〜……。」

やよい「大丈夫、けんた君。熱でもあるんじゃない。」

けんた「わかってるよ。ところで、山から平野に流れる川が3本あるけど、いちばん西側のが千里川だろ。真ん中のが天竺川で、その東側のが、えーと…。」

やよい「高川。ふつう川って、地面よりも低いところを流れるものよね。でもこの川はね、昔から氾濫する度に堤防が高く積み重ねられて、今じゃ川の水が、まわりの家よりも高いところを流れているのよ。こういう川を天井川っていうの。(7ページ右上の写真)」

けんた「ああ、そういえば北条町付近の道路を歩いていると、高川と交差するところがガードになっているね。」

やよい「つぎはなあに。」

けんた「うん。千里川の両側がね、なんだか階段のように見えるんだけど。」

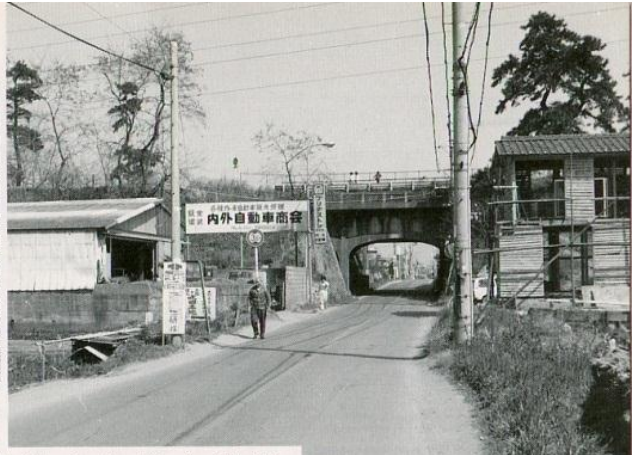
やよい「うん、じつはこれ、段丘っていうらしいの。わ



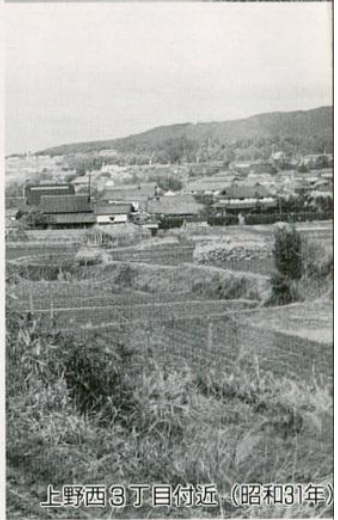
産業道路（国道176号線）  
蛍池から石橋方面を見る（昭和13年）



昔日の島熊山



北条町付近の高川



上野西3丁目付近（昭和31年）

ちよつとけんた君、なに考え込んでるの。」  
 けんた「うん、80年前の風景はわかったけど、縄文時代や弥生時代はどうだったんだろって思ってる。」  
 やよい「それがね、80年前の地形と、それほどたいした違いはなかったようなの。ただ南側の平野部では、弥生時代の生活の跡が、今の地面から2〜3メートル下から見つかっているわ。だから2000年ほどの間にも、北部の丘陵が雨や風で削られ、流れ出した土砂がしだいに平野を埋めていった、ということは間違いないさそつね。」  
 ……ちよつとけんた君、どうしたのよ。」  
 けんた「うーん…。縄文時代や弥生時代のようすも、なんとなくわかったけど、それよりずっと、ずっと昔はどうだったのかなあ。ねえ、やよいちゃん。ねえ。」  
 やよい「もーっ／＼意外としつこいんだから。そんなことまでわかるわけないじゃない。でも、せつかくだし。専門の先生にお話を伺いにいきましようか。」  
 けんた「賛成！」

けんた「ところでやよいちゃん。この地形図が描かれた明治18年っていったら、今からだいたい100年前だろ。今じゃ住宅地や高速道路ができて、この地形もすいぶんと変わってしまっているんだろつね。」  
 やよい「そうね。明治の頃は、人口も今よりずっと少なくて1万4000人くらい。ほとんどの人は農業をして暮らしていたの。大きな開発がないから、山は一面の緑、川にはとてもきれいな水が流れていたらしいわ。」  
 けんた「じゃあ、この豊中が住宅都市に変化したのは、いつ頃から？」  
 やよい「今からだいたい80年くらい前から。阪急電車（当時は箕面有馬電気軌道）や、国道176号線（産業道路）ができてからよ。」  
 けんた「ということは、つい80年前までは、緑一面の自然の中に、のどかな農村の風景が広がっていたことになるんだね。」  
 やよい「そつね、今じゃちよつと寂しい気もするけど…」



古箕面街道の道標  
（上野東1丁目）



大池（現在の太池小学校 昭和初年）



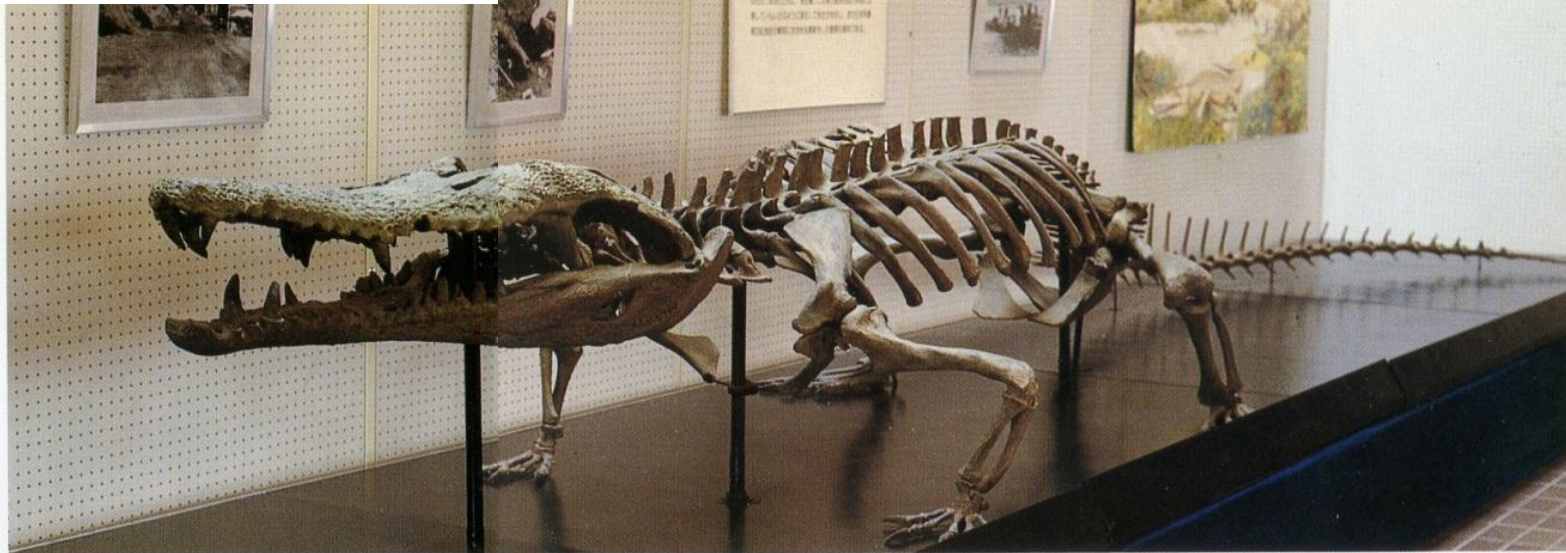
現在の名神インター付近（昭和35年）



豊中駅付近の産業道路（昭和12年）

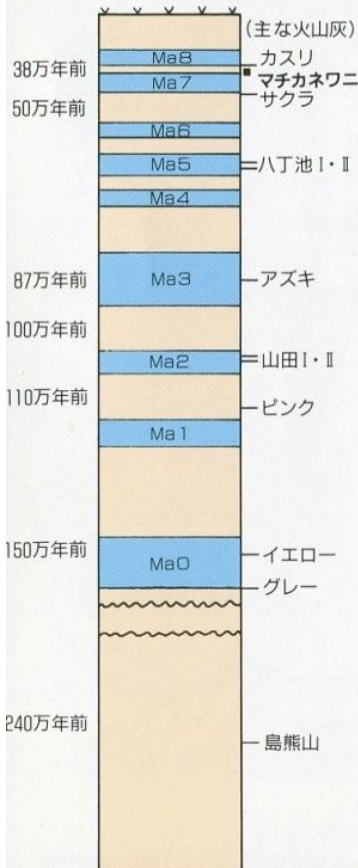


発掘作業風景



なかせ こうじろう  
中世古幸次郎先生

1925年大阪市生まれ。大阪大学教養部教授を経て、神戸山手女子短期大学教授。豊中市文化財保護審議会会長、豊中市史編さん委員として、豊中市の文化財に深く関与される。



⑩ 大阪層群の模式断面図

**マチカネワニ** 昭和39年、大阪大学の理学部前の道路建設中に発見された、日本最大のワニ化石。地名をとり、マチカネワニと名づけられた。全長8mで、現存種のガビアル、クロコダイル、アリゲータのどれよりも大きい。第7、8海成粘土層には含まれた淡水成粘土層から出土し、約37~40万年前の年代が与えられている。



## 大阪層群ってなに？

おおさかそうぐん

「やよい、けんた」先生、こんにちは。「中世古先生」やあ、こんにちは。」

「やよい」今日は先生に、豊中の地形がどのような形にできあがったのか、お聞きしておじやました。」

先生「そう。じゃあまずこの模型を見てもらえん。(上の写真)」

けんた「きゃあ、かわいい！」

「やよい」けんた君がかわがってどうすんのよ。それにしても大きいわねえ。先生、これひょっとして、ワニの骨ですか？」

先生「そうだよ。ただしこのワニの骨は、今からおよそ40万年前の化石で、マチカネワニと呼んでいるんだ。全長8メートルもあるんだよ。」

けんた「40万年って、えーと弥生時代が2000年前で、縄文時代が1万年前から始まって……、ええっ/そんなに古いものなの。それに、8メートルっていったら、僕の身長5倍の長さだよ。」

先生「専門的にいうとね、新生代第四紀更新世と呼ばれる時代なんだ。今、アフリカで生きているワニが大きいので6メートルくらいだから、それよりもまだ大きいってことになるね。」

「やよい」先生。マチカネって、待兼山のあのマチカネのこと？」

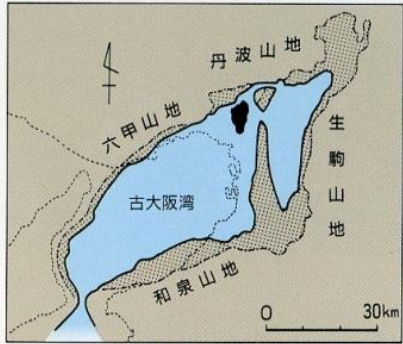
先生「そうだよ。待兼山のすぐそばにある大阪大学で、道路をつくり、雨水を流すための溝を掘っていると、その土の中から偶然見つかったんだ。そのあと発掘調査をして、尻尾を除く全身の骨格が掘り出されたんだよ。」

けんた「でも先生、ワニって山にも住んでいたんですか。」先生「いや、そうじゃない。君たちも知っているとおり、ワニは川や湖といったところで生活する動物だね。だから40万年前には、待兼山のあたりに湖があったらしいってことがわかるんだよ。」

けんた「ふうーん。今じゃ山になっているけど、40万年の間に、そんなに地形が変わってしまったんですかね。」先生「そついうことだね。でもそれだけじゃない。このワニ」



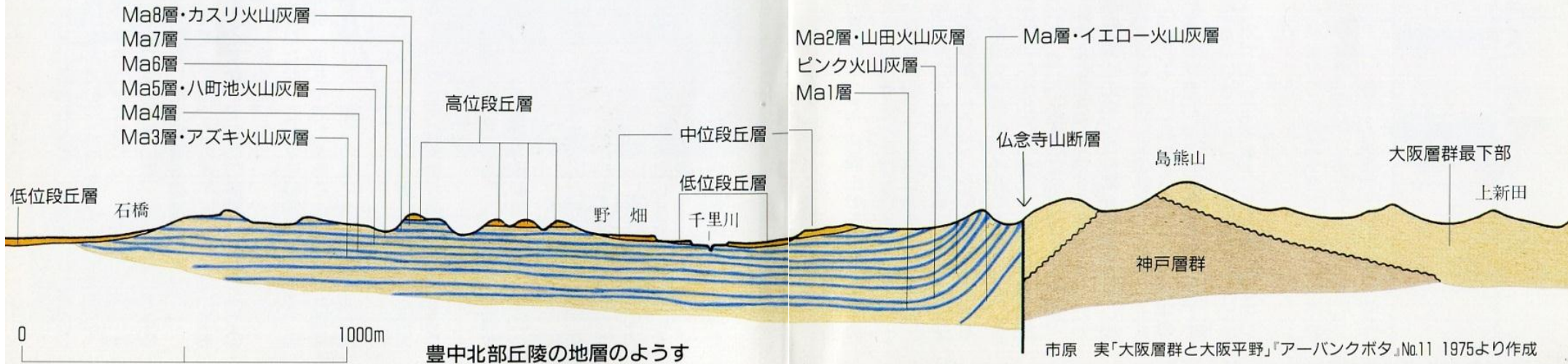
第1,2海成粘土層(Ma1,2)が  
たまった頃の海(約120~100万年前)



第8海成粘土層(Ma8)が  
たまった頃の海(約35万年前)  
『大阪府史』第1巻1978より作成

「やよい」じゃあ、地球が寒くなるってどういうことかとおこったんですか？  
先生「まず、北極や南極の海の水がさらに凍って、氷の厚さが増す。と同時に、地球全体の海の水が北極と南極に引き寄せられて、海面が低くなる。」  
けんた「海面が低くなるってことは、陸地の部分が増えるってことですね。」  
先生「けんた君もさえるね。じゃあ、逆に暖かくなるとどうなるか？」  
けんた「氷がとけて、陸に海の水がまた流れ込む……。ああ、なるほど。この豊中のあたりに何回も海の水が入り込んだのは、そのように説明できるんですね。」  
先生「そのとおり。わたしたち人間が住むようになる、すつとすつと昔、気候の変化にともなって、豊中の地が海になったり陸になったりしたというのを、大阪層群の地層は語りかけてくれているんだよ。」

二が見つかった地層の上下からは非常にたくさん貝化石が出土する。いちばん下から淡水に棲むセタシジミやカラスガイ、その上からは淡水と海水が混じった水を好むヤマトシジミ、それにいちばん上の層からはアカガイやチヨハナガイなどの海にすむ貝の化石が含まれていたんだ。」  
やよい「ということは、先生。大阪大学のあたりに川や湖があっただけじゃなくて、海になっていたこともあるんですね。」  
先生「そのとおり。なかなか頭がさえるね。じつは豊中から吹田にかけて広がる千里丘陵は、小石や砂、粘土など、いくつもの地層が重なってできているんだ。大阪層群というんだが、その地層のなかに海の底でたまった粘土層が9枚はさまっているんだよ。」  
けんた「じゃあ、この豊中は9回も海の底になったってこと？」  
先生「だいたいそういうことだね。」  
やよい「でも先生。同じ場所が陸になったり、海の底になったりしたってことは、地面が高くなったり、低くなったりしたってことですか？」  
先生「うむ。たしかに今から200万年から10万年前の頃は、地殻変動とあって、陸地がはげしく隆起(りゅうせい)もちあがること(し)したり、沈降(ちんこう)（沈み込むこと）したりした時代だから、そういうことも考えられるかもしれない。でもそれだけじゃないんだよ。君たち、氷河時代って知ってるかい。」  
けんた「うん。聞いたことあるよ。昔、地球全体が寒くなって、一面、氷で覆われてしまった時代ですね。」  
先生「いやいや。実際は今の日本アルプスのように万年雪がもう少し低い山にまで残る程度なんだが。それでも寒い時には、今よりも7、8度も気温が低かったんだよ。世界的には寒い氷期と比較的暖かい間氷期とが、約11万年の周期でくりかえし訪れたんだ。」



豊中北部丘陵の地層のようす

市原 実「大阪層群と大阪平野」『アーバンクボタ』No.11 1975より作成

しょうじ幼稚園  
東側崖の観察



けんた「ハア、ハア、ああしんど。こんなに歩いたのひさしぶりだなあ。なんだい、これ？ただの崖じゃないか。つまらないなあ。帰ろうかなあ。」

先生「これっ。ブツブツいわないで、よく観察してごらん。これがさっき説明した大阪層群の地層だよ。」

やよい「先生、地層ってぶつう、水平にたまっているものなんじゃないんですか。でもこの崖では、一つ一つの地層が縦に走っていますね。」

先生「よく気がついたね。これは急傾斜層といって、もともと水平に堆積（積み）（積もってたまること）していた地層が、大きな変動を受けて、急な角度に傾いてしまったんだよ。」

やよい「何メートルもの厚さの地層が、ほとんど横倒しになるなんて、相当大きな変動があったんでしょね。」

先生「そうだね。じつはこの崖の東側には、大きな断層が（南北に走っているんだよ。（仏念寺山断層と呼ばれる）」けんた「断層って。」

先生「地面の下では、さまざまな力がおこっている。たとえば左右から大きな力がぶつかり合えば、どちらか一方がおしあげられる。反対に、互いに離れようとする力が働くと、片方がズレて沈み込んでしまう。その時にできる地層のズレが断層なんだ。」

やよい「ということは、この崖の地層が傾いているって

ことは、その断層と関係があるんですね。」

先生「そういうことだね。おそらく仏念寺山断層の西側の地層が沈み込む時に、いちばんはしの地層が引きずられて、ほとんど垂直に立ってしまったんだろうね。」

やよい「ほかに、この崖からわかることは。」

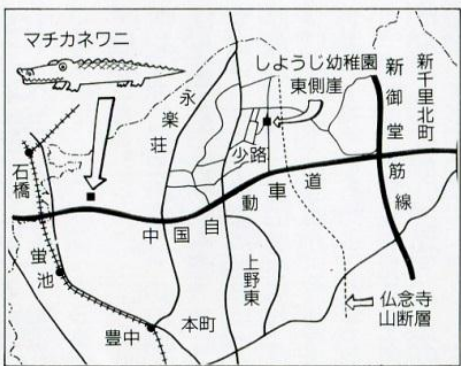
先生「うん、崖の右の方を見てごらん。幅3メートルほどの灰色の粘土層がみえるね。これが海の底でたまった粘土層なんだ。この粘土層の中にはね、火山から噴き出された真っ白な火山灰が、2枚はさまれているんだよけんた「ええっ、豊中に火山があったの！」

先生「ちよっと待ちなさい。火山灰というのはね、とても軽い物質でできているんだ。風で遠くの方にまで飛んでいってしまうから、どこに火山があったかまではわからないんだよ。」

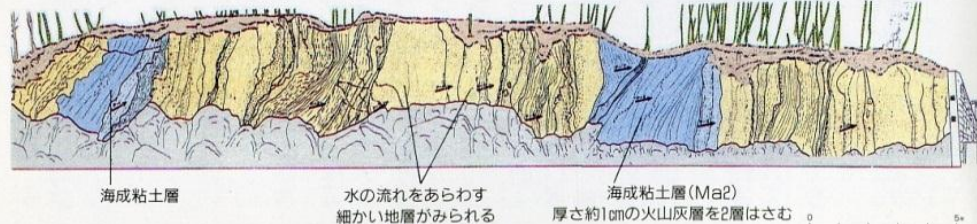
けんた「ふーん。白くろなげなく見えている崖の地層も、よく調べると、大地の歴史のさまざまなメッセージがよみとれるんですね。なんだか僕も、博士になったような難うございました。」

先生「これからも、わからないことがあったら、いつでも聞きにくるといいよ。」

けんた、やよい「じゃあ、先生。失礼します。」

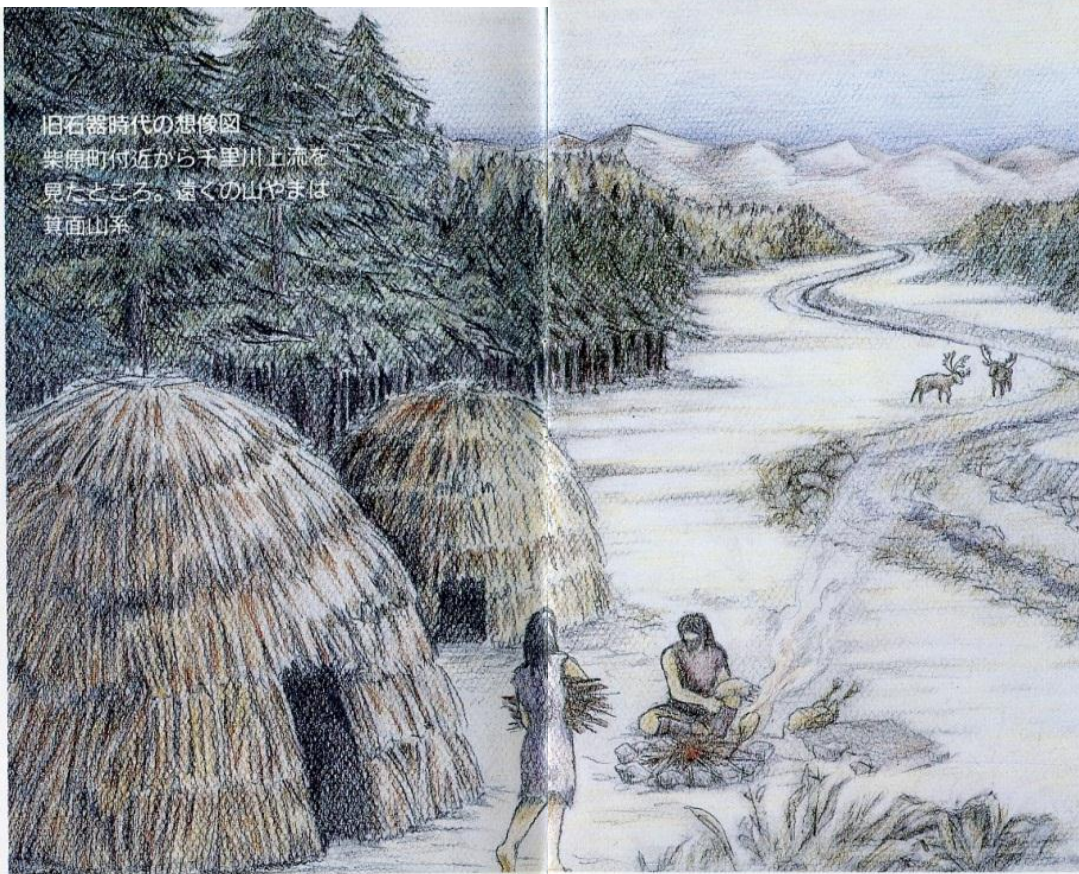


海成粘土層中の火山灰層





旧石器時代の想像図  
柴原町付近から千里川上流を  
見たところ。遠くの山やまは  
箕面山系



豊中市内各地でみつかったナイフ形石器



ナイフ形石器



## 旧石器時代の豊中

けんた「……………」。

やよい「どうしたのよ。まだなにか聞きたいの。」

けんた「ん、いや、その、なに……………」。

やよい「もっつ、はつきりいってよ。」

けんた「うん。この豊中にね、いちばん最初に人が住みついたのは、いつ頃からだろうと思って。」

やよい「そうくるだろうと思ってたわ。ではお教えしましう。まずはこの写真を見て(上の写真)。」

けんた「なんだいこれ？ ただの石ころじゃないか。」

やよい「ちがうの。よく見てよ。右側がナイフのようになっている。左側がギザギザになっている。これはね、ナイフ形石器といって、明らかに人が作ったものなのよ。柴原町で見つかったんだって。」

けんた「ふうーん。でもこんな石で、ものが切れるのかい。」

やよい「この石はね、二上山<sup>ニノノカミ</sup>っていう山でとれる石で、サヌカイトっていうのよ。割るとカミソリのような刃ができるから、石器を作るのにちょうどいいの。」

けんた「二上山って、ひょっとして生駒山<sup>いけま</sup>の南の方にある、ラクダのごぶのような山のこと。」

やよい「そうよ。豊中からは35キロも離れているわ。石器を作るために、わざわざ運んできているのよ。」

けんた「へえー、驚きだね。ところでこの石器、いつ頃のもの？」

やよい「そうね、だいたい20万年前くらいかしら。」

けんた「20万年ノということは、そんなに古くから豊中に人が住んでいたのかい。」

やよい「そういうことノ20万年前っていうとね、ちょうど最後の氷河期(ウルム氷期)の頃で、いちばん寒かった時期なの。海が今より100メートルも低かったから、大阪湾や瀬戸内海も陸地になっていたらしいわ。」

けんた「じゃあ、今とかなり自然のようすも違っていただろうね。」

やよい「そうね。服部や庄内のような平野部にも谷がきざまれて、山にはブナやゴヨウマツのような、寒い気候を好む植物が生えていたようね。」

けんた「今の信州の上高地あたりを想像すればいいってことだね。でもやよいちゃん、その当時の人たちって、なにを食べて生きていたのかな。」

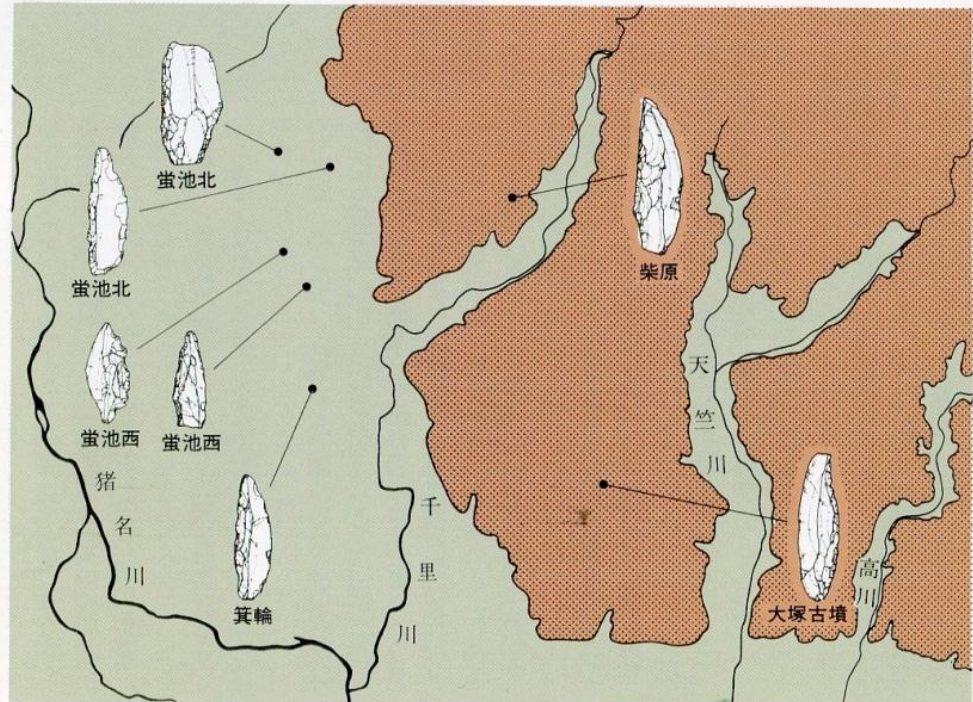
やよい「象よ。」

けんた「ソ、ソウって、あの鼻の長い……………」。

やよい「そうよ。実はね、瀬戸内海<sup>せと内海</sup>の海底から、たくさん象の化石が見つかっているの。当時、瀬戸内海は陸



になっていて、大きな谷のような地形だったらしいわ。  
 その谷底を、象がノシノシと歩いてたわけね。」  
 けんた「その象を殺して食べていた。うーん、考えただけでもゾーっとするね。」  
 やよい「……………」  
 けんた「ゴホン。ところで、象のほかにはなにを？」  
 やよい「オオツノシカや小動物。でも残念ながら、こうした動物の化石は、まだ豊中からみつかったくないのよ。」  
 けんた「でも、石器が見つかっているんなら、住居跡なんかも。」  
 やよい「それも残念ながら不明。これまでに市内の6箇所から、石器だけが1、2点ずつしか見つかったくないの。でもね、下の地図や石器の写真を見てみると、むかしむかし、豊中の山やまを動物たちを追って、キャンプを張りながら歩き回っていた旧石器人たちの姿が、だんだんと頭に浮かんでこない。ねえ、けんた君。ねえ。」  
 けんた「うーん、ムニヤムニヤ……………」  
 やよい「もうっ／＼すぐ寝ちゃうんだからあ〜」



豊中市内でナイフ形石器が見つかったところ

やよいちゃん。僕たちの住んでる豊中って、今のよう  
 形になるまでには、本当に長い時間がかかったんだね。  
 そうね。考えてみると、わたしたちが生きられる時間な  
 んて、大地の歴史からみれば、ほんの一瞬って感じ。そ  
 の一瞬のあいだにも、人間って、くらしが便利なように、  
 つぎつぎと自然を、地形を変えていくんだわ……………。  
 なんだかもったいないような気がするね……………。  
 でもね、けんた君。豊中には、わたしたちの知らないこ  
 とが、もっといっぱいあるのよ。おじいさんやおばあさ  
 ん、そのまたずーっとむかしの人びとのくらし。豊かな  
 自然の中で育まれてきた、ながいながいくらしぶり。  
 知りたいなあ、僕たちの街のこと。そうすれば、もっと  
 この街を好きになるかも知れないね。  
 どう、調べてみる？  
 うん／ やよいちゃんに負けないように、いっちゃやっ  
 てみるか。  
 じゃあ、ふたりで競争ね／ わたしたちの知らない世界  
 にむかって、ヨーイ、ドーン／